



2015-2016年度 R.I. テーマ



「篆刻」石崎 巖 会員



- ◆ 会長 木下 茂 ◆ 幹事 宮崎 繁幸
- ◆ 発行 会報委員会 2月担当 柴 垣

第2343回例会 2月2日(火)

- ◆ 点 鐘 木下 茂 会長
- ◆ 司 会 宮崎 繁幸 幹事
- ◆ 国歌斉唱
- ◆ ローターソング 「奉仕の理想」
- ◆ 四つのテストの唱和 職業奉仕委員会
- ◆ ビジター
魚津ロータリークラブ 辻 浩 様

ハッピーバースデー



2月5日
原 君

- ◆ 会長挨拶
2月に入りました。明日は節分です。
節分とは、各季節の始まりの日の前日のことをいいます。
「季節を分ける」ことを意味していて、立春の前日にあたり2月3日以外にも、立夏・立秋・立冬の前日も節分と呼ばれる日にあたります。
今月は、大学受験がピークを迎えます。

お子さんやお孫さんに関係のみなさんは、気がかりな時期でしょう。

現在日本の四年制大学の進学率は50%を超え、日本の社会は「2人に1人が大卒」という時代です。

進学者が増えたおかげで全国の大学は自然と学生が集まっていますが、2018年から減少に転じます。

778校ある国立私立大学が生き残りをかけ若者を奪い合う時代になり、企業も教育分野に遅れて直面する課題となります。

今月のロータリーのテーマは「平和と紛争予防」です。

今年に入ってからの中東情勢の変動、テロの脅威や難民問題等、考えさせられることが多いです。

◆ 出席報告 (南副委員長)

- ・ 出席率 会員30名中(出席免除者2名) 22名 78.57%
- ・ 欠席者 芦崎さん、慶野君、小林君、森本君、鈴木君、横谷君の諸君
- ・ 前々回 (2341回) の修正 なし

◆ 幹事報告

- 黒部中央ロータリークラブより
- ・ 国際ロータリー第2610地区富山第一分区 I M例会のご案内
- 佐々木君より
- ・ 地域職業人表彰の新聞記事

創立1968年 (昭和43年) 5月27日 [第2610地区内創立順位19]

例 会：火曜日 12:30 於. にかわ信用金庫本店5 F TEL (0765) 24-1155 第3例会 18:30 於. 喜楽 TEL (0765) 22-0715

☆ 2 月度例会案内

	活 動 内 容	例会場
2 / 9 (火)	卓話担当：原君 Rの友・R情報	信金 5 階
2 / 16 (火)	夜間例会	喜 楽
2 / 23 (火)	卓話担当：横谷君	信金 5 階

★ 2 月の S A A 補助

森本君・富川君の諸君です。よろしくお願ひします。

◆ ニコニコボックス

今週までの合計額 431,500円

◆ 卓 話 「おいしい珈琲豆の選び方」



富 川 義 隆 君

本日は、よい珈琲豆の選び方について話していきたくと思います。

皆さんのテーブルにAからD、4種類の珈琲豆があります。

この中の1つが審査会（カップオブエクセレンス入賞豆）です。カップオブエクセレンス入賞豆はどれか見つけてみましょう。

まずは、食後のコーヒーをお召し上がりください。

このコーヒーを探してもらいたいと思います。

カップオブエクセレンスとは、アメリカスペシャルティコーヒー協会が中心となり、風味を基準に審査会を行い、その国のその年の風味の質が基準に満たした珈琲に贈る称号です。30品以上の事もあれば、1品しかない事もあります。

それでは、さっそく探していきましょう。

- ・焙煎
- ・焙煎ムラ
- ・油の出かた
- ・焙煎時期
- ・スクリーンサイズ
- ・欠点豆
- ・香

お店ではプライスカードやスタッフから次のような情報は得られます。

- ・豆の等級
- ・品種
- ・産地
- ・収穫時期
- ・精製方法



第2344回例会 2月9日(火)

- ◆ 点 鐘 木下 茂 会長
- ◆ 司 会 宮崎 繁幸 幹事
- ◆ ロータリーソング 「我等の生業」

☸ ハッピーバースデー ☸

- ・ 2月11日 畠 山 夫人
- ・ 2月12日 森 本 夫人
- ・ 2月22日 宮 田 夫君

◆ 会長挨拶

春を迎え、携帯電話の商戦が始まりました。いつの時代も家庭の費目は、食費、住居費、衣服費、教育費、光熱費が主目でしたが、携帯電話料金が重く加わるようになりました。

通信エンゲル係数が上昇の一途です。

そんな世論に安部首相の意を受け、総務省が通信各社へ携帯・スマホの値下げ要請となりました。民間企業が設定した価格に政府が口をはさむのは異例のことです。

日本の携帯利用者のデータ使用量は、この3年で3倍に伸びていますが、業界はライト層、ヘビー層それぞれに使い勝手のよい料金プランを用意し、新たに電力料金との組み合わせとの魅力を引き出そうとしています。

他者からの乗り換え客に支払われるキャッシングバックなど問題もあり、スマホが家電や車、ロボットを制御する時代も現実味を帯びており、そうした設備投資も視野に入れ、バランスのとれた改革をすすめてもらいたいものです。

◆ 出席報告 (鈴木委員長)

- ・ 出席率 会員30名中(出席免除者2名) 23名 82.14%
- ・ 欠席者 石崎君、関君、富川君、横谷君、吉野さんの諸君
- ・ 前々回 (2342回) の修正 なし

◆ 幹事報告

- 国際ロータリー日本事務局より
 - ・ 水と衛生月間 リソースのご案内
- ロータリーの友事務局より
 - ・ 2016-2017年度版ロータリー手帳お買い上げのお願い
- 国際ロータリー第2610地区国際青少年交換委員会より
 - ・ アメリカ・カナダ短期交換留学プログラムについて
- 国際ロータリー第2610地区ガバナーより
 - ・ 2015-2016年度R I 「意義ある業績賞」候補について
- 2015-2016年度ガバナー事務所より
 - ・ 台湾南部地震お見舞金について

☆ 2月度例会案内

	活 動 内 容	例会場
2/16(火)	夜間例会	喜 楽
2/23(火)	卓話担当：横谷君	信金5階

★ 2月のSAA補助

森本君・富川君の諸君です。よろしくお願いします。

◆ ニコニコボックス

今週までの合計額 446,500円

◆ 卓 話 「魚津市 どうなる？どうする？」



原 英 高 君

今年、魚津市は市長や市議会議員の選挙があります。しばらく選挙のない状態が続いていましたが澤崎義敬市長が引退されることがはっきりして、にわかには選挙ムードが高まっています。そこで今日の卓話は魚津市の現況を確認した上でこれからの魚津市にどんな問題があり、それについての私の勝手な思いを語らせていただきたいと思えます。

まず、大きく日本の人口推移について見てみると2013年の12,700万人をピークにして人口減少社会に突入しています。人口はその後放物線状に減少し2100年には約5,200万人、2500年には何と44万人となり日本国は消滅してしまいます。これを「静かなる有事」というそうです。富山県の状況を人口ピラミッド図でその変化を見るとこの通りです。全体の減少もさることながら高齢化の凄まじいスピードに驚かされます。では魚津市はどうなっているか。「消滅可能性都市」という衝撃的な造語で一躍有名になった増田レポートのランキングには入っていませんでしたが2040年には35,000人まで減ってしまいます。そしてその後も減少の一途をたどります。2040年はあとわずか22年後です。

このような国家の危機に対して安倍政権は「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ地方創生が人口減少社会の切り札との認識から3つの基本的テーマを立てています。

- ①「東京一極集中」の是正
- ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
- ③地域の特性に即して地域課題の解決

富山県はこの方針にそって8分野の基本方針を立て富山県の創生に取り組むそうです。一方魚津市は5年に一度見直される「魚津市総合計画書」を見てみると抽象的で総花的、そしてどこの小規模自治体でも当てはまるような文言しか並んでいません。そこでこれからの魚津市をどうするかは市民が自ら考え提案していく機運が生まれなければ行政に頼っても地方創生は進まないことがわかります。では、この恐ろしい人口減少と超高齢化社会の到来を少しでもおくらせたり、ゆるやかな変化にしていくにはどうしたらいいでしょうか。人口の変化には大きく自然的要因と社会的要因があります。自然的要因は子供の生まれる数が基本であり合計特殊出生率が2.0以

上にならなければ人口は増えません。1975年に2.0を下回って以降出生率は下降し続けています。出生率低下の原因は、様々なことが挙げられますが改善するには社会の構造や思想が大きく変わる必要があり時間と社会全体の大きなエネルギーが必要だと思われます。一方社会的な要因は単に人口の移動で増減が起きます。つまり流入と流出です。魚津市の人口を今のままで維持しようとするには急激な自然増は望めず社会増で自然減少分を補っていかねばなりません。そのためにはどうするか、どんな方法があるかということになります。

富山県では、人口の移動時期をライフステージに当てはめて対策が考えられています。

①18歳のとき富山から出て行か無いために。

- ・大学の誘致
- ・若者に魅力のあるまちづくり

②22歳のときに富山に戻りたくなくなったり居座りたいと思うために

- ・Uターン、Iターンできる環境づくり
 - ・県内大学卒業生が定住化できる環境づくり
- そのためには働きたい企業と住みたい住環境の充実とPR

③30歳からの安定した生活のために

- ・古里に帰れる施策
- 職場と住まいそして特色のある文化の継承と創造
- では、魚津市ではどうしたらいいでしょうか。私はこの閉塞感みなぎる魚津市で消滅可能性都市にならないための可能性はピンチをチャンスに変える発想だと思います。

魚津市の持っているピンチを上げるのは簡単です。

- ①JRから分離され、特急の止まらない駅に格下げされた魚津駅
- ②築60年が過ぎ老朽化が著しい日本的に有名な防火帯建築の中央通り商店街
- ③小学校が消えて学校の跡地だけが残る旧市街地中心部大町、村木地区
- ④水族館、博物館の魅力低下と老朽化による維持管理コストの市民負担
- ⑤市街地の空き家、火災跡地、工場跡地など放置され空洞化した社会資本

などなど。

これらの問題は行政も市民も今まで経験したことのない原因で起こった問題です。成熟した高度成長社会が人口減少というその社会を支える基本的なエネルギーを失い衰弱していく状況といえると思います。従来のまちづくりは地域に不足しているものをプラスしていくことで地域の活力を増やしていくことがまちづくりでしたが、これからは衰弱した体の臓器を移植して蘇生していくような大胆な手術が必要になってきていると思います。壊死した臓器をそのままにしていると当然身体全体が死んでしまいます。今こそ大胆な発想で臓器の入れ替え手術

が必要だと思います。その時に同じ身体（まち）に戻るのではなく人口減少社会を前提とした新しい時代にあった新しい身体（まち）を創造しなければなりません。

例えば魚津駅は黒部宇奈月温泉駅と富山駅をつなぐ魅力的で貴重な鉄道ルートの基幹駅です。この沿線にはさまざまな魅力が満載です。観光もよし、住みやすいまちに定住して県都富山市まで通勤してもよしそんな位置付けで魚津駅を見れば新幹線が止まらなかったという恨み節をいつまでも唱えずに新しい駅のイメージを官民一体で創造できると思います。

また村木地区には学校跡地と中央通り商店街の建て替え用地が隣接して存在しています。歩いて暮らせる21世紀型の安心なまちづくりを魚津大火の後が残るまちから立ち上げる意味は大きいと思います。高齢者が安心して在宅サービスを受けることができる公営住宅を建設し一人暮らしの方に移住していただき、空いた住宅やお店を整理集合して、单身者向けの食品や最寄り品が充実した商業集積や人の集まる本屋さん、カフェなどに改造していくことでまちの新陳代謝を図ります。これらが鴨川の親水空間やまだ新しい図書館、そして金浦町のまち並みなどと相まって全く新しい町をこれも官民一体となって開発できるのではないかと思います。

今度の市長選では、ピンチをチャンスに変える発想力を持ち、新しい魅力的な魚津市をつくれる市長さんが選ばれるように、市民がしっかりと意識を持って選挙に臨みたいものです。

